

《研究ノート》

# 『紅樓夢』年表新考

池間 里代子

A New Consideration about the Chronotological Table of “Honglouloumeng”

RIYOKO IKEMA

キーワード

主なできごと (main incident), 宝玉年齢 (age of Baoyu), 伏線 (underplot)

## 前言

中国の清代中葉に成立した小説『紅樓夢』(120回のうち80回までは曹霑、それ以降は高鶚の続作といわれる) については過去4種類の年表が発表されている。本稿は、それらの年表を基に再構築し、更に解説を付したものである。

(宝玉14歳から15歳)

第五部 第79回から第97回まで

(宝玉15歳から17歳)

第六部 第98回から第120回

(宝玉17歳から19歳)

## 3. 附録：誕生日

### 1. 先行年表

周 汝昌 『紅樓夢新証』  
上海棠棣書店 1953年<sup>1)</sup>  
松枝茂夫 『紅樓夢』(翻訳)  
岩波書店 1972年  
伊藤漱平 『紅樓夢』(翻訳)  
平凡社 1973年  
『紅樓夢辞典』  
山東文艺出版社 1986年

1月1日 賈元春  
2月12日 林黛玉  
2月21日 薛宝釵・襲人  
2月?日 薛未亡人  
3月1日 王奥方  
3月3日 賈探春  
3月9日 賈璉  
4月?日 賈宝玉・薛宝琴・平兒・邢岫烟  
5月3日 薛蟠  
8月3日 史太君  
9月2日 王熙鳳  
10月23日 王子騰

### 2. 「新考」における分類

第一部 第1回から第16回まで  
(宝玉1歳から11歳)  
第二部 第17回から第36回まで  
(宝玉12歳から13歳)  
第三部 第37回から第53回まで  
(宝玉13歳)  
第四部 第53回から第78回まで

## 第一部

	主なできごと	宝玉年齢
第1回	甄士隱と賈雨村，語り合う	1歳
	甄士隱，通靈宝玉の夢を見る（宝玉誕生の暗示）	
第2回	賈雨村，蘇州府知事となる	5歳
	賈雨村免職され，林黛玉の家庭教師となる	6歳
第3回	賈敏死去し，林黛玉が賈雨村に伴われ冬に上京	7歳
第4回	初夏に薛宝釵一家が上京	8歳
第5回	冬に觀梅宴を張り，秦可卿の部屋で太虚幻境を夢見る	
第6回	宝玉，襲人と契る	9歳
	冬，劉ばあさん榮国府を訪問	
第7回	寧国府の宴会で宝玉と秦鐘初対面	
第8回	通靈宝玉と宝釵の首飾りとが対をなすこと発覚	10歳
第9回	冬，宝玉と秦鐘が家塾に入る	
第10回	秦可卿の病重篤	
第11回	9月，賈敬誕生会。賈瑞，王熙鳳に付きまとう	
第12回	賈瑞，計にはまって病に倒れる	11歳
	賈瑞，風月宝鑑によって死去	
	林黛玉，父危篤の報により帰郷	
第13回	林如海，秦可卿死去	
	賈珍，秦可卿のために盛大な葬儀を執り行う（両者不義の伏線あり）	
第14回	秦氏葬儀の最中，宝玉は北静王と初対面	
第15回	宝玉，農家の小娘に心引かれる	
	秦鐘，饅頭庵で智能と密会	
第16回	賈政誕生会。同日，賈元春が貴妃となる	
	秦業死去。程なくして秦鐘も死去	

## 第一部解説

第1回から第3回までは物語の舞台である賈府をめぐる話題ばかりである。特に天上界での話題は後々登場する人物がどのような性格であるのか、どのような末路をたどるのかを暗示する、重要な伏線となっている。しかし、初めて読む人はその伏線が何を意味するのか全く理解できない。ゆえに『紅樓夢』は一回読んでもその面白さがいまひとつ分からないと良く言われる。

第3回からいよいよ登場人物が揃いはじめる。主人公の賈宝玉を始め、従妹の林黛玉（第3回）・同じく従姉の薛宝釵（第4回）、そして秦家の人々。第一部では秦業、その養女である秦可卿、弟の秦鐘が登場するが、全員死去している。まず、秦可卿は夢で太虚幻境を見た宝玉に昼寝の部屋を提供した（第5回）ものとして、また賈珍（秦可卿にとって舅に当たる）との不義密通が露呈して自死した<sup>2)</sup>（第13回）として、読者に不穏な雰囲気を与える。次に秦鐘

は、宝玉と共に家塾へ行く学友としてだけではなく、この二人が男色関係にあったことを暗示する描写があり（第9回）、さらに秦鐘死去の遠因が智能（小尼）との密会であった（第15回）ことを考えると、宝玉がだんだんと大人の世界に入っていく契機を与えるキーパーソンとしての人物形象がうかがえる。

秦家の人々に次ぎ、林黛玉の両親—まず母親の賈敏（第3回）、次いで父親の林如海（第13回）が相次いで死去する。これにより、林黛玉が天涯孤独の身の上になったことが明示されている。

第6回に劉ばあさんが登場する。この道化役は物語のところどころに登場し、王熙鳳の言動や大観園での豪華酒宴を読者に説明したり、最終的には王熙鳳の娘巧姐の将来に関わっていく（第119回）重要な役どころである。

第一部最後に賈元春が貴妃となり（第16回）、地上の太虚幻境たる大観園建設へと続いていく。



黛玉



史湘雲



秦可卿

## 第二部

	主なできごと	宝玉年齢
第17回	元春妃を迎える為に大観園の造営始まる	12歳
第18回	賈政、賈牆に子供役者の監督を任せる	
	櫳翠庵主に妙玉を招く	
	元宵節に元春妃帰省、宴会	13歳
第19回	宝玉の侍者茗煙、玳兒と密会	
	宝玉、襲人の実家で従妹に心惹かれる	
第20回	宝玉、侍女の麝月に髪を梳いてやる	
	史湘雲、榮国府に初めて来る	
第21回	湘雲、宝玉の髪を梳く	
	襲人、宝玉を諫める	
	王襲鳳の娘大姐兒が痘瘡に罹患	
第22回	1月21日、宝釵誕生会（15歳）	
	22日、宝玉は黛玉らと禪問答	
	詩謎を作るが、不吉な予感を賈政感ずる	
第23回	2月22日、宝玉らは大観園に移り住む	
	春、宝玉と黛玉『西湘記』を読み、落花を埋める	
第24回	賈芸、園の花木管理を任される。紅玉を見初める	
第25回	宝玉、異母弟賈環に熱油を浴びせられる	
	賈環の母趙氏が恨んで熙鳳・宝玉を呪い殺す企みを立てる	
	通靈宝玉の力で両者全快	
第26回	宝玉、賈蘭の騎射稽古を叱責	
	宝玉、馮紫英と初対面	
	賈芸、紅玉と密会	
第27回	4月27日芒種節、宝釵蝶を追う	
	熙鳳、紅玉を重用する	
	黛玉「葬花詩」を作る	
第28回	宝玉、蔣玉函と腰帶を交換（襲人・玉函婚姻の伏線）	
	宝玉、宝釵の腕に見とれる。宝玉・黛玉といさかい	
第29回	5月1日、清虚観で榮国府の法事を営む。金麒麟入手	
	翌日宝玉・黛玉再びいさかい	
第30回	宝玉・黛玉和解する	
	宝玉、金釧兒に戯れ母王夫人の怒りを買う	
	子供芝居の役者齡官、薔薇棚の下で「薔」字を書く	
	宝玉、誤って襲人を蹴る	
第31回	5月5日、晴雯怒りに任せて扇子を裂く	
	翌日、湘雲金麒麟を拾う（婚姻の伏線）	

	主なできごと	宝玉年齢
第32回	宝玉、黛玉に心情を吐露する 金釧児、井戸に身を投げて死去	13歳
第33回	賈環の告げ口により、宝玉は賈政に折檻される	
第34回	襲人、王夫人に献策する 宝玉が手帕を黛玉に贈り、黛玉がこれに詩を書く	
第35回	宝玉、玉釧児に蓮葉湯の給仕をさせる 鶯児、宝玉のために編物をする	
第36回	宝釵、襲人に代わって鴛鴦の刺繍を続ける	

## 第二部解説

大観園建設から始まる第二部では、賈元春帰省など華やかな話題が多い<sup>3)</sup>。また宝玉と黛玉のいさかい（第28回・第29回）から、宝玉が真情吐露したこと（第32回）を経て、宝玉が送った手帕に黛玉が詩を書くという結末（第34回）につながっていく<sup>4)</sup>。

第二部では襲人・蔣玉函の婚姻が伏せられ（第28回）、史湘雲が金麒麟の持ち主と結ばれる伏線（第31回）が張ってある。これ以外に、宝

玉ではないが「密会」が第19回・第26回、「片思い」が第30回、宝玉が「心惹かれる」状況が第19回、第28回とあり、第二部では恋が満ちている。

さらに、賈蘭に対する宝玉の評価が全編を通して2箇所出てくるが、その第一回目として第26回に「騎射稽古を叱責」というものがある。これは宝玉の価値観が後に変化していくものとして記憶すべき場面であろう。



探春



宝釵



惜春

## 第三部

	主なできごと	宝玉年齢
第37回	賈政、地方に転勤 8月21日探春の提唱で海棠詩社結成、翌日湘雲来邸し菊詩の題を考案	13歳
第38回	23日、史太君ら金木犀の花見 続いて菊花詩会、黛玉第1席となる 宝釵ら蟹の詩を詠む	
第39回	劉ばあさん再訪	
第40回	25日、史太君は劉ばあさんを大観園での酒宴に招く	
第41回	宝玉ら、櫳翠庵に妙玉を訪れ、茶を飲む	
第42回	劉ばあさん、大姐児を巧姐児と改名（孫との婚姻伏線） 惜春、大観園図の製作にかかる	
第43回	亡き金釧児の誕生日（9月2日）に宝玉ひそかに祭る	
第44回	熙鳳誕生会。夫賈璉は下男の妻と密会、侍女の平児が疑われ殴打される 翌日下男の妻は縊死	
第45回	9月11日、黛玉病む	
第46回	賈赦、鴛鴦を妾に望むが、鴛鴦は嫌がる	
第47回	9月12日史太君、賈赦の妻邢夫人を面罵 14日、頼大の家宴で宝玉が柳湘蓮と初対面、薛蟠を殴打する	
第48回	薛蟠、商用の旅に出る 賈赦、賈雨村の力で古扇を奪う 香菱連日黛玉に詩を習う	
第49回	15日、香菱夢で詩を作る 薛宝琴・李紋・李綺・邢岫烟ら榮国府に入る 史湘雲、宝釵と同居 10月17日初雪、蘆雪亭で鹿肉を食べる 平児の腕輪紛失	
第50回	蘆雪亭で聯詩 雪中、櫳翠庵へ妙玉を訪れ紅梅をもらい、詩を作る	
第51回	宝琴「懷古」詩を披露 襲人、母を亡くす 晴雯、風邪を引く	
第52回	宝玉・黛玉、心中を打ち明けられず 史太君、宝玉にオロシア製の雀金裘を与える 晴雯、病をおして雀金裘の焦げ穴を繕う	
第53回	烏進孝、莊園の年貢を納めに寧国府に来る	

### 第三部解説

ここには詩会を中心に、賈府の絶頂期を余すことなく描かれている。

まず、第37回で「海棠詩社」が結成され、翌日菊花詩会のかたわら「蟹宴」がにぎやかに催される。第48回・49回では香菱の詩作について詳細な描写があり、第51回で宝琴「懷古」詩披露、と続く。一説では曹霈の役割は物語の中に詩詞を散りばめることであったという<sup>5)</sup>。そうであれば、各人の個性によって詩詞の作風を変えて作った手腕は優れたものと評価できよう。

さらに、第39回で劉ばあさんを中心に、大観

園での豪華酒宴が描かれている。

同時に、賈瑞死去（第12回）に続き鮑二内儀死去（第44回）がある。これは王熙鳳にまつわる事件だ。また賈赦、古扇を強奪（第48回）、平兄の腕輪紛失（第49回）などの後禍の伏線が出現しており、莊園から年貢を納めに上京するシーン（第53回）では寧国府に納める年貢が以前より少なくなっていることが語られ、絶頂から下降していく暗示が散りばめられている。

林黛玉の健康が、第45回あたりから損なわれていることにも注意すべきだ。



迎春



元春



妙玉



## 第四部

	主なできごと	宝玉年齢
第53回	元宵節で観劇をする	14歳
第54回	史太君講談の陳腐さを説き、熙鳳まぜかえす	
第55回	1月下旬、熙鳳流産して床に臥す	
	王夫人、李紈・探春・宝釵に家事を任せる	
	黛玉・湘雲病気	
第56回	探春、辣腕を発揮し経済の立て直しを計る	
	甄家の人々が上京、宝玉は甄宝玉の夢を見る	
第57回	紫鵑、宝玉の真意を試すが、宝玉が真に受け人事不省になる	
	邢岫烟と薛蝌が婚約する	
第58回	3月、薛未亡人が黛玉と同居	
	子供役者を処分、8名が大観園に移る	
	清明節に藕官は亡薬官を祭る	
	芳官は義母といさかいをする	
第59回	鶯児が柳で籠を編んだことが発端で、花木管理の老婆と衝突	
第60回	芳官ら、趙氏と大ゲンカ	
	柳の家内は娘五児の奥勤めを画策、司棋・柳の家内「卵事件」発生	
第61回	柳五児、冤罪を蒙って軟禁される	
	彩雲、賈環に絶交を言い渡す	
第62回	4月、宝玉誕生会	15歳
	湘雲、酔って芍薬の下に眠る	
	香菱、草合わせをして裙をよごす	
	同夜、怡紅院で内緒の宴会を持つ	
第63回	花占いの酒令をする	
	賈赦、元真観で仙薬を作りそこない急死	
	尤氏は葬儀にかかり、尤二姐・尤三姐が寧国府に来る	
	賈璉、ひそかに尤二姐を妾とし、囲う	
第64回	7月、黛玉はひそかに両親を祭る	
	黛玉「五美吟」を作る	
	賈珍・賈璉、尤三姐に翻弄される	
第66回	尤三姐、柳湘蓮に嫁ぐ意志を固める	
	賈璉、平安州への道中で柳湘蓮と会い、婚約を決める	
第67回	8月、帰京した柳湘蓮は婚約破棄を申し渡す	
	尤三姐は自刎し、湘蓮は出家する	
	熙鳳、尤二姐のことを聞きつける	
第68回	10月、熙鳳は尤二姐を言いくるめて大観園に迎える	
	熙鳳、尤二姐の重婚を訴えさせるほか、寧国府で尤氏と賈蓉を面罵する	
第69回	12月賈璉帰宅、父より秋桐を妾として与えられる	
	熙鳳、秋桐に尤二姐の殺害を示唆	
	尤二姐、藪医者に劇薬を盛られて流産し、絶望して自害する	
第70回	3月、黛玉「桃花行」にちなみ詩社を桃花社と改名	15歳
	3月3日探春の誕生会	
	湘雲「柳絮詞」により詞会を開き、風上げをする	
第71回	7月末、賈政任期を終え帰京	
	史太君80歳の誕生会（8月3日）	
	鴛鴦、司棋が従弟と密会するのを目撃	



	主なできごと	宝玉年齢
第72回	頼旺の妻、彩霞を嫁にと強要 趙氏、彩霞を買環の嫁にと求めるも不許可	15歳
第73回	8月、史太君は賭博をした者に厳罰を与える	
第74回	王夫人、讒言を信じて晴雯を叱責、大観園を搜索 惜春、兄嫁の尤氏と衝突し、寧国府と絶交宣言	
第75回	8月14日寧国府の月見	
第75回	8月15日榮国府の月見	
第76回	王夫人、司棋・晴雯・四児・芳官らを追放 芳官・藕官・蕊官ら出家する	
第78回	宝釵、嫌疑を避けるために大観園を去る 宝玉、晴雯の死を知り「芙蓉女兒誄」を作って祭る 賈璉、ひそかに尤二姐を妾とし、囲う	
第64回	7月、黛玉はひそかに両親を祭る 黛玉「五美吟」を作る 賈珍・賈璉、尤三姐に翻弄される	
第66回	尤三姐、柳湘蓮に嫁ぐ意志を固める 賈璉、平安州への道中で柳湘蓮と会い、婚約を決める	
第67回	8月、帰京した柳湘蓮は婚約破棄を申し渡す 尤三姐は自刎し、湘蓮は出家する 熙鳳、尤二姐のことを聞きつける	
第68回	10月、熙鳳は尤二姐を言いくるめて大観園に迎える 熙鳳、尤二姐の重婚を訴えさせるほか、寧国府で尤氏と賈蓉を面罵する	
第69回	12月賈璉帰宅、父より秋桐を妾として与えられる 熙鳳、秋桐に尤二姐の殺害を示唆 尤二姐、藪医者に劇薬を盛られて流産し、絶望して自害する	
第70回	3月、黛玉「桃花行」にちなみ詩社を桃花社と改名 3月3日探春の誕生会 湘雲「柳絮詞」により詞会を開き、風上げをする	
第71回	7月末、賈政任期を終え帰京 史太君80歳の誕生会（8月3日） 鴛鴦、司棋が従弟と密会するのを目撃	
第72回	頼旺の妻、彩霞を嫁にと強要 趙氏、彩霞を買環の嫁にと求めるも不許可	
第73回	8月、史太君は賭博をした者に厳罰を与える	
第74回	王夫人、讒言を信じて晴雯を叱責、大観園を搜索 惜春、兄嫁の尤氏と衝突し、寧国府と絶交宣言	
第75回	8月14日寧国府の月見 8月15日榮国府の月見	
第76回	王夫人、司棋・晴雯・四児・芳官らを追放 芳官・藕官・蕊官ら出家する	
第78回	宝釵、嫌疑を避けるために大観園を去る 宝玉、晴雯の死を知り「芙蓉女兒誄」を作って祭る	

## 第五部

	主なできごと	宝玉年齢
第79回	迎春の出嫁が決まり、園を出る	15歳
	薛蟠の正妻が決まるが、宝玉は香菱の為に憂慮する	
	宝玉病気になる	
第80回	迎春は粗暴な軍人に嫁ぎ、虐待される	
	薛蟠は夏金桂を妻に娶るが、手を焼く	
	薛蟠は金桂の侍女宝蟾と通じる	
	金桂・宝蟾は香菱を虐待する	
第81回	迎春の里帰りにより、宝玉は彼女の不幸を嘆く	16歳
	宝玉・李紋・李綺・邢岫烟は共に魚釣りをする	
	潘三保が逮捕されて趙氏の悪事が暴かれる	
	賈政、再び宝玉を家塾に入れて勉強させる	
第82回	襲人、黛玉の真意を探る	
	黛玉、悪夢を見て驚き血を吐く	
	惜春、大観園図を完成させる	
第83回	元春妃病気の一報、史太君から見舞に参内、その後快癒	
	金桂と宝蟾がいさかい	
第84回	史太君、宝玉の嫁に宝釵を意識する	
	賈環、病気の巧姐を見舞うが薬缶を倒して熙鳳の恨みを買う	
第85回	9月、北静王誕生日に宝玉は通靈宝玉の模造品を賜わる	
	賈政・黛玉の祝宴中、薛蟠殺人容疑で逮捕の一報	
第86回	薛蝌の奔走により調書改竄が成功	
	黛玉、宝玉に琴譜の説明をする	
第87回	黛玉、古手帕に往時を偲び、琴を奏でる	
	宝玉、惜春と同道して妙玉を訪ね、黛玉の琴を聞く	
第88回	宝玉、史太君に賈蘭を称賛する	
	幽霊が出るとの噂	
第89回	10月、雀金裘を見て亡晴雯を偲ぶ	
	黛玉、雪雁の話しを立ち聞きし、絶食を決める	
第90回	黛玉の疑惑が解け、快癒	
	史太君、宝玉の嫁に宝釵を提案	
	邢岫烟の貧しさを熙鳳が憐れむ	
第91回	宝蟾、金桂に計を授け継弟夏三と密通	
	薛蟠再び獄に繋がれる	
	黛玉、禅語で以て宝玉の真心を知る	
第92回	11月1日消寒会	
	司棋自殺、潘又安後追い自殺	
	馮紫英、洋貨を売り込むが断られる	

#### 第四部解説

紅樓夢全編を通じて正月の描写があるのは第53回のみである。めでたい正月行事、派手好きの史太君が喜んだ観劇から始まる第四部は、宝玉の誕生会（第62回・63回）、探春の誕生会（第70回）に続く風上げ、史太君80歳の誕生会（第71回）、寧国府月見・榮国府月見（第75回）と宴会続きだ。『紅樓夢』の読み方は様々あるが、年中行事という観点から見ると正月（含む元宵節）・清明節<sup>6)</sup>・端午節・中秋節の4大行事のうち3つが第四部に集中していることにも注目すべきだろう。

楽しい日々と縄をなうかのように、様々な事件も起きる。まず王熙鳳の流産（第55回）を皮切りに賈赦急死（第63回）、尤二姐・尤三姐事件（第67・69回）、大觀園搜索（第74回）、晴雯死去（第78回）と続く。このうち尤姉妹については第63回～69回という短期間に二人とも大騒ぎを起こして自死してしまう<sup>7)</sup>。

このほか、第四部では「卵事件」も勃発した。芳官・司棋・柳の家内・柳五児がからむ事件である（第60回～61回）。紅樓夢では賈家がストーリーの中心であるが、「卵事件」で描かれているのは料理方や見習い侍女など下層の人々であり、この視点が小説にリアリティを与えている。

#### 第五部解説

薛家の放蕩当主である薛蟠がいよいよ本領を発揮する。女性に関して次から次へと目移りする性格が自滅へと追い込んだばかりか、「豊年にこの大雪、真珠も土くれ同然、黄金も鉄同然<sup>8)</sup>」だった薛家を破産させてしまう。第80回で正妻夏金桂が登場すると、侍女の宝蟾や側室の香菱を巻き込んで大騒動の日々が続く。そうこうするうちに薛蟠は殺人事件を起こし（第85回）賄賂を注ぎ込んだ結果命と引き換えに薛家の財産をすってしまうのだ。

薛家と軌を一にする如く、林黛玉の健康がますます損なわれていく。第82回で悪夢を見て咯血（第83回では賈元春妃も不例に）、第89回では侍女の話を立ち聞きして疑念を生じ、絶食を決意。（第95回で賈元春が急病になり、翌日薨去）第96回、王熙鳳の計画<sup>9)</sup>を馬鹿姉やによって知ってしまい古手帕・詩稿を処分した揚句、翌日宝玉・宝釵の婚礼時刻に涙を流し尽して<sup>10)</sup>死去する。

宝釵に対する評価は反対にだんだん良くなる。第84回で史太君は宝釵を宝玉の嫁に、と意識し、第90回で宝釵を正式に提案する。

第二部で指摘した、賈蘭に対する宝玉の評価が第88回にも出てくる。ここでは家塾でのエピソードを宝玉が史太君に語って聞かせるシーンである。「賈蘭の出来はどうだったか？」と尋ねられた宝玉は、以前とは違い、家塾での勉強を肯定するようになってきたため賈蘭を賞賛した。宝玉の変化を窺わせるエピソードである。



王熙鳳



巧姐



李纨

## 第六部

	主なできごと	宝玉年齢
第98回	黛玉の死が公になる	17歳
	宝玉は紫鵲より黛玉臨終の様子を聞き、かえって恢復に向う	
第99回	その100日後、宝琴・湘雲・岫烟・李紋・李綺らが大观園を退去	
	賈政、赴任先で探春の縁談をまとめる	
第100回	薛未亡人、宝釵に薛家破産を告げる	
	金桂、薛蝌を誘惑しかける	
	熙鳳、月夜にモノノケに驚き、秦氏の霊に遭う	
第101回	賈璉、遠親の犯罪を知り熙鳳を罵る	
	柳五兒、宝玉の侍女となる	
	尤氏発狂、続いて賈珍・賈蓉ら病む	
第102回	賈赦、大观園に妖邪を祓う法事を営む	
	賈政、節度使に弾劾される	
	金桂、香菱を毒殺しようとして逆に自分が毒を飲んで死ぬ	
第103回	賈雨村、急流津畔の小廟で甄士隱と遭うが意味が分からぬうちに別離	18歳
	醉金剛倪二が賈雨村に捕えられるが、賈芸は助けられなかった	
第104回	賈政、役を退いて帰宅	
	錦衣將軍、寧国府の家財を没収	
第105回	賈赦は世襲を剥奪され、逮捕される	
	賈珍、李御史に弾劾される	
	熙鳳、巧姐の将来を平兒に託す	
第106回	史太君、寧国府の人たちを引き取る	
	史湘雲、出嫁する	
	恩賜により賈赦・賈珍は流刑、賈政・賈蓉は免罪となる	
第107回	賈政に榮国公の世襲を許される	
	熙鳳、再び家事を取り仕切る	
第108回	1月19日、湘雲里帰り	18歳
	翌日宝釵の誕生会	
	1月22日、史太君病む	
第109回	宝釵懐妊する	
	迎春、病死。湘雲の夫危篤	
	史太君死去	
第110回	葬儀を熙鳳が仕切るが、往時の精彩を欠き、通夜で咯血する	
	鴛鴦、史太君に殉じる	
第111回	何三、強盗を手引きするも包勇に殺される	
	妙玉、強盗に掠められる	
第112回	惜春、出家の意志が益々固まる	

	主なできごと	宝玉年齢
第112回	趙氏、馬道婆の事を暴露しつつ鉄鑑寺に狂死する	18歳
第113回	熙鳳、病重く、劉ばあさんに巧姐を託す	
	宝玉、妙玉の掠められるを聞き慟哭	
	熙鳳死去。王仁、巧姐から金を巻き上げようとする	
第114回	甄家、賈家を訪問し、甄宝玉・賈宝玉がまみえる	19歳
第115回	甄宝玉を罵倒した宝玉は宝釵に諫められ、瘋癲再発	
	宝玉人事不省の時、僧が通靈宝玉を持って駆け込み、命を取りとめる	
	宝玉、夢に再び警幻仙境に遊び、金陵12釵を読んで仙縁を悟る	
第116回	宝玉、僧になると言い皆を驚かす	
第117回	賈璉、賈赦危篤の報で流刑地へ行く	
	惜春、尤氏といさかい、尼となり櫳翠庵主となる	
第118回	王仁らが謀議して巧姐を外藩主の妾として売り飛ばそうとする	
	湘雲は未亡人となり、宝琴もすでに嫁した	
	李綺と甄宝玉との婚約が整った	
	宝玉、八股文を大いに学ぶ	
	宝玉、後の事を鶯児に託し賈蘭とともに科挙を受験、二人とも合格	
第119回	平兒、巧姐を連れて劉ばあさんの家に脱出	
	宝玉、失踪	
	冬、賈政が僧形の宝玉と会うが見失う	
第120回	各々が帰るべき所に帰って物語が終わり、曹雪芹が記述した	

## 第六部解説

薛蟠の正妻夏金桂は香菱を毒殺しようとして逆に自らが毒を飲んで死去（第103回）。そして栄華を誇った買家がついに家宅搜索を受けて没落する（第105回）。そんな中、史太君が死去（第110回）。侍女鴛鴦も殉じる（第111回）。その葬儀を仕切った王熙鳳はかつての精彩を欠き、逆に通夜で咯血してついに死去（第114回）。妙玉は掠められ（第112回）、惜春は出家する（118回）。

宝玉は再び夢に大虚幻境を見て仙機を知る（第116回）。そして買家再興のために科挙試験勉強に励み（第118回）、合格する（第119回）も失踪する。

寧国府は没収されたが幸い榮国府は残され、宝玉と賈蘭の科挙合格、宝釵の懷妊などで再興の兆しを見せて物語は終わる。

## 後言

『紅樓夢』は章回小説のスタイルを取ってはいるが、実質は長編小説である。作者の意図は伊藤の言うようにあらかじめ用意されていたはずである<sup>11)</sup>が、成立の事情から伏線の成就が残念ながら破綻した部分も多い。また作者、続作者についてはいまだ異論がある。しかし、現在我々が見ることのできる「120回紅樓夢」を完成したテキストとみなし分類すると、本稿の如く6分類になろう。

本稿が『紅樓夢』読書の一助となることを希望する。

## 注

- 1) 但し、この年表は曹霑年表である。
- 2) 『紅樓夢』では秦可卿病死となっているが、元々は天香樓で首を吊って死去したことになっている。『紅樓夢脂評校録』朱一玄 p.184 齊魯書社 1986。
- 3) 第27回「薛宝，釵蝶を追う」、同回「林黛玉，葬花詩を作る」、第31回「晴雯，扇子を裂く」、第36回「薛宝釵，鴛鴦の刺繍を続ける」などのシーン。
- 4) 宝玉・黛玉の心の触れ合いは第34回「手帕」の他に、第23回「葬花」、第86回「琴譜（知音）」、第91回「禪語（鷓鴣）」に見える。
- 5) 第64回の脂硯評に「『五美吟』はのちの『十独吟』と対照する」とあるが、失われた。前掲書『紅樓夢脂評校録』p.513
- 6) 清明節に風上げをする地方もある。
- 7) 尤二姐は賈璉に囲われたのが王熙鳳にばれて虐待され、流産した結果絶望して自害した。尤三姐は柳湘蓮と婚約までこぎつけるものの、破棄されて自刎した。
- 8) 第4回に見える「護官符」による。「大雪」の「雪 xuě」と「薛 xuē」が同音。
- 9) 宝玉・宝釵挙式の際、宝玉に「新婦は林黛玉だ」と思わせるために黛玉の侍女紫鵲を介添に起用すること、これを口外しないこと。
- 10) 黛玉は前世で宝玉の前世である神瑛侍者に甘露を注いでくれた恩に報いるため、一生分の涙を注ぐという前提になっている。
- 11) 「『金陵十二釵』稿は、全百回をほぼ二十回・三十回・三十回・二十回に配分した四部の構成をとっていたと考えられる。」『紅樓夢 上』平凡社 解説p.571

## 図版説明

『紅樓夢』金陵十二釵剪纸 2010年5月 北京製 筆者蔵  
2010年5月に行われた老舎を読む会・紅樓夢を読む会共催の中国旅行会より筆者に贈られたものである。主催の中山時子お茶の水女子大学名誉教授に深い謝意を表す。